

真田幸村ゆかりの品

戦国時代最後のいくさ「大坂夏の陣」にて越前松平勢と激戦を繰り広げ、討ち取られた「日本一の兵（つわもの）」真田幸村(信繁)※。福井に伝わるその遺品などを紹介します。

※以下、展示では幸村でなく史料上に見える名である「信繁」を使用します。

1. 六十二間小星兜 伝 真田信繁所用 井伊美術館寄託

具足の古櫃の一部とおぼしき「西尾」の墨書のある板片が付属しており、大坂夏の陣で真田信繁を討ち取った福井藩士・西尾宗次（仁左衛門）の子孫の家より流出したものと伝わる。

細長い鉄板を重ね細かい鋸で留めた「小星兜」で、鉢は黒漆、それに付属する四段の鍔は朱漆をかけてある。脇立を差し込む突起はあるが立物は伝わっていない。鉢裏に「上州住成重作」の銘があり、室町時代末期の上野国の甲冑師・成重の作と知れる。

伝来を信ずるならば、大坂夏の陣において西尾宗次が真田信繁を討ち取った際に戦利品として得た兜と考えられる。



2. 薙刀 無銘 伝 真田信繁所用 越葵文庫

3の采配とともに真田信繁を討ち取った福井藩士・西尾宗次の子孫の家に伝わったもので、のち藩主松平家に献上され、松平家に伝来している。由緒書が残されており、「慶長二十年乙卯七月十三日元和ト改 大坂御陣茶白山御本陣之節 真田左衛門尉幸村ヲ討取采配ト長刀 西尾仁左衛門尉宗次」「此長刀及采配ハ当藩士西尾仁左衛門尉宗次が茶白山陣ニ於テ真田幸村ヲ討取りタル際分捕セシモノ也」「采配 薙刀西尾久馬所持 祖先西尾仁左衛門尉宗次大阪ノ役ニ茶白山陣ニ於テ真田左衛門尉幸村ヲ討取此両品ヲ分捕」といった文言が見える。



3. 采配 伝 真田信繁所用 越葵文庫

黒漆塗の竹を串とし、白紙の房をつけた采配。2の薙刀とともに真田信繁の遺品として伝わっている。

紙の房の部分に血液とおぼしき染みが残っており、「幸村血付きの采配」として知られている。

4. 石造 地蔵菩薩立像 通称「真田地蔵」 当館蔵

笏谷石製の地蔵菩薩立像で、裏に「元和元寅年 大機院真覚英性大禪定門 三月初七日 西尾氏立之」と銘がある。「大機院…」は信繁の法名。

信繁を討ち取った西尾宗次が造立したと伝わるもので、藩祖結城秀康の菩提寺で西尾氏の菩提寺でもあった孝顕寺の境内に安置されていた。俗に幸村の首塚とも伝えられていたが、明治期に建てられた「真田幸村鎧袖塚碑」では、信繁の鎧袖を埋めて供養したものとしている。

西尾家に伝わった文書には、信繁の首は真田一族に奪い返されることをおそれて城下の某所に埋葬し、その場所は一子相伝の秘密としたという。

現在は補修されているが、地蔵菩薩の首はいつのころか破損し落ちたといい、これをもとどおり載せようとするとその者は必ず熱病に悩まされたという。